

堺市がん対策推進委員会 がん検診推進部会 議事録

日 時 平成28年11月30日(水) 14時00分から
場 所 堺市役所 本館6階 会議室
出席者 高杉部会長、平松副部会長、大石委員、大里委員、西川委員、池宮城委員
橘委員、中山委員

1 挨拶 堺市健康福祉局長 小椋 啓子

2 部会長及び副部会長の選出
大阪府保健医療財団 高杉委員が部会長に就任
大阪労災病院 平松委員が副部会長に就任

3 案件

(1) がん検診受診率向上強化への取り組みについて

- 西川委員
- ・横断的に実施する取組みについては賛成です。
 - ・先行実施する中・西・北区の3区以外の市民に不公平感がないよう3区以外のタイムスケジュールを盛り込んではどうでしょうか。
- 高杉委員
- ・先行する3区のノウハウを全区に広げる記載に修正が必要です。
- 池宮城委員
- ・勧奨対象者を過去5年に受診歴のあるものとするのはよいと思います。
 - ・区毎に勧奨を実施するのであれば、区内医療機関情報を掲載すべきです。
 - ・現状では、区のホームページから医療機関一覧にリンクがされていないので改善が必要です。
- 高杉委員
- ・インターネットは普及していますが、高齢者にも近くの医療機関情報が伝わるよう配慮が必要です。
- 橘委員
- ・医療機関の勧奨も必要ですが、「特定健診と一緒に受けよう」などといったキャッチフレーズが必要ではないでしょうか。
 - ・和泉市の事例では特定健診と合わせた勧奨で3%か4%の受診率が19%にあがった事例があります。
- 中山委員
- ・特定健診は受診するが、がん検診は別日の予約となるため受診しない人がいます。肺がん、大腸がん検診は、特定健診と同時受診が可能であるため、セット受診の勧奨を実施すべきです。
- 高杉委員
- ・保健師等が実施する啓発に、統一的な内容を入れるべきです。
 - ・要精密検査者への勧奨について、医師会より各医療機関への啓発も

必要ではないでしょうか。

- 中山委員
- ・国は精密検査受診率の目標値を90%にする動きがあります。堺市の精密検査受診率は20%台となっており、この機会に改善に取り組んでいただきたいです。
- 西川委員
- ・精密検査の予約を取り消す受診者がいます。その場合、一次検診医療機関は把握ができません。予約が取り消された場合、一次検診医療機関に情報をフィードバックするシステムが必要ではないでしょうか。
- 平松委員
- ・予約が取り消された際に、一次検診医療機関にフィードバックすることは可能と考えられます。
 - ・検診率をあげるため、がんに罹患したが、早期発見により早期治療につながったタレントをPRに起用する方法もあると思います。
- 大石委員
- ・定期検診を受ける事で早期発見ができ、元気に生活できることを伝える必要があります。
- 大里委員
- ・多様な職種の活動を効率的に行うためのかじ取りや調整が必要であり、がん検診の受診率向上に向けて取り組んでいることをアピールして啓発していく必要であります。
- 平松委員
- ・がんに対する関心が高くないのが問題です。まずはがんに対する関心を高めていく方策が必要です。

(2) がん検診制度について

(がん検診の委託料について)

- 西川委員
- ・堺市医師会の中では、がん検診のあり方について見直す機運が出てきています。
 - ・がん検診の検診料は、本来は自由設定であるが、目安として診療報酬を参考としています。医療機関が検診実施機関として受託しやすいよう行政と協議し、結果を部会で報告したいと考えています。行政と医師会が一体となりがんばっていきたいと思います。
- 高杉委員
- ・診療報酬が目安ではあるが、検診を行う手数料として設定する方法もあります。
 - ・行政の予算の中で協議を実施し報告していただきたいです。

(30歳代の乳がん検診の見直しについて)

- 高杉委員
- ・国の指針に基づき実施する方針でよいと思います。
 - ・現在は隔年で実施し、検診を受診しているが、がんが発見できないような症例が出てきた場合の対応については、今後の課題としてあ

るのではないかと思います。

- 西川委員
- ・自覚症状があれば、検診の対象ではなく、保険診療となるため、乳腺外来のある医療機関を受診するよう広報も必要です。